



GEIBUN

009

富山大学 芸術文化学部紀要 第9巻
平成27年2月

表紙・裏表紙

高岡を代表する文化資源「高岡大仏」は幾度も再建された歴史を持つ。1745年（延享2）に建立された金色木仏は、1821年（文政4）に焼失した。1841年（天保12）に再び木像が建立されたものの1900年（明治33）、高岡中心部で発生した大火災によって焼失した。この大火を契機に、山町筋では土蔵造りの町屋が立てられたが、高岡大仏も1933年（昭和8）に耐火性に優れた鋳銅仏として甦った。

原型は当時ほとんど実績のなかった中野双山に依頼された。双山は全国の仏像を見て歩き着想を得たという。柔和で整ったその表情は、与謝野晶子に「鎌倉大仏より美男子」と評されたほどで、大抜擢に見事に応えた。仏像の製作には、古式鋳造法である焼型重ね吹き技法が用いられ、鋳造から着色にいたるすべての工程を高岡の職人たちが行った。高岡大仏は高岡のものづくり技術と心意気を示す象徴になっている。境内にある灯籠や手水鉢、そこに水を注ぐ龍も銅鋳物で高岡らしい。

高岡大仏は「日本三大仏」と呼ばれることもあるが、奈良と鎌倉が確定しているものが高岡が認知されているわけでない。むしろそう聞いて訪れた観光客は、民家と混在する立地にいささか失望してしまうようだ。建立の経緯からも「三大仏」より「鋳物職人のシンボル」を推してはいかがだろう。その方が民家の中にあることや、背中が見える路地が魅力的に見えてくる。

Photo & CG : Ryozo Takeyama



GEIBUN 009

富山大学芸術文化学部紀要 第9巻 平成27年2月

発行日 平成 27 年 2 月 27 日

発行者 国立大学法人 富山大学 芸術文化学部
〒 933-8588 富山県高岡市二上町 180
TEL. 0766-25-9140 (芸術文化学部 総務課)

企画・編集 紀要委員会
辻合秀一 (委員長)、山田真一 (副委員長)、
林 暁、松政貞治、河原雅典、島添貴美子、
立野智子・松尾直美 (事務局)

デザイン 武山良三

印刷所 能登印刷株式会社
〒 920-0855 石川県金沢市武蔵町 7-10
TEL. 076-233-2550

© The Faculty of Art and Design
University of Toyama

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。複写を希望される場合は、必ず発行者までご連絡ください。



Bulletin of the Faculty of Art and Design
University of Toyama



<http://www.tad.u-toyama.ac.jp>

ISSN 1881-6649

